

未来

人権教育啓発シリーズ NO.3



今回は、ヤングケアラーがテーマです。最近よく耳にするワードですね。だれもが幸せに暮らすことのできる世の中をつかっていくために一緒に考えていきましょう。

ヤングケアラーって知ってる？

家族のために家のことをがんばるということはとても素晴らしいことです。ですが、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもは、一般に、ヤングケアラーとされています。

例えばこんな様子・・・

家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話や見守りをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

厚生労働省「子どもが子どもでいられる街に」ヤングケアラーとは 参照 <https://www.mhlw.go.jp/young-carer/>

誰もがやっている「お手伝い」とどうちがうの？

一般的に子どもが行う「お手伝い」の範囲を超えて家族の世話などを担っています。

こんな影響が出てしまうことも・・・

心への影響

友人関係への影響

就職への影響

学業への影響

身体への影響

将来

自分の時間や勉強の時間が取れない、自分にできると思う仕事の範囲を狭めて考えてしまう、友人との時間が少ない将来に希望がもてない、など

体ばかりでなく、心も疲れてしまったり、学校生活にも影響が出てしまったりするんだね。そんな場合は、注意が必要だね。

2022年の厚生労働省の調査

小学生、大学生を対象に行われ、
小学6年生の6.5パーセント（約15人に1人）、
大学3年生の6.2パーセント（約16人に1人）が、
世話をしている家族が「いる」と回答しました。

ヤングケアラーの中には勉強や自分の時間が取れない、睡眠時間が十分にとれないというだけでなく、ケアについて話せる人がいなくて孤独を感じる、ストレスを感じる、などの悩みを抱えている人が少なくありません。

ヤングケアラーは本来、子どもとして過ごすはずだった時間を手放してしまっているかもしれません。だれもが幸せに暮らすことのできる世の中のためにみなさんもこの問題について一緒に考えてみませんか。



タブレットやスマートフォンから二次元バーコードを読み取って、この動画にアクセスしよう！
厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/young-carer/>
【特別対談編】「武井柱×元ヤングケアラー特別対談
～ヤングケアラーって、知っていますか？～」